

六、演説の要旨

○部落民解放運動の展望

全水常任委員 北原泰作

全國に所謂特殊部落六千あるが一般部落と異つた特殊な部落の構成がある譯ではない、階級とは經濟の上に立つ關係であるが、特殊部落民とは身分的差別待遇である、而も經濟上にも被搾取關係にあり此の二重の鐵鎖に繋がれて居る水平運動はこの鎖を断ち切る爲だ。

徳川中期以來虐げられ來た身分的壓迫は枚擧に遑がない、明治初年の太政官令發布さるゝや吾々水平社同胞は如何に喜んだ事か、恰もロシアに於ける農士の解放を けた時農民が全國を擧げて喜んだのと變りはない！注意。。。然し依然として差別は續けられ融和事業其他の運動は吾々の解放にはならなかつた、而して吾々自身の大衆的運動を起したのは大正七年

で、死刑無期等犠牲者の多くは部落民であつた、これ等の運動は漸次政府に於て政治的運動として認たが故に大正九年部落改善費四萬五千圓を出し大正十二年には一圓四十五萬六千圓の増加となつた何故か、大正十一年三月三日に部落民解放運動としての水平社の團結が生れたからだ。

かくて上層階級の欺瞞的運動より吾々自身の自主的解放運動となり、且つ糾弾の對照が漸次減少すると共に水平運動も衰退した、それは目標を過つたからである、そこで表面の差別問題よりも現在の社會組織をなす資本主義制度に於ける身分制を打破する事になければならぬ、これに對する闘争が最近の運動となつたのである。労働者農民を搾取するものは資本家だ、特殊部落民を差別するものは資本主義制度に於ける身分制だ、故に労働者農民と共に此の資本家地主に對抗せねばならぬ、労働者農民と分離して吾々の解放運動は成功せぬ